

おしゃべり通信

No. 227 H30.10.15 発行 如春会 浦田医院

～H29年4月発行 日本小児科医会会報特集～

スマホパンデミック！④

＜スマホ社会の落とし穴＞



1. 現代文明の副作用？ -②

2) 子供の成育環境がどう変わったか？

20世紀後半から21世紀にかけてTV・ビデオ・TVゲーム・PC・ケータイなど電子映像メディアが急速に普及し、それに伴って日本の子供たちの「子供期の生活様相」も大きく様変わりしています。この生活様相の変化は、子供が作った訳ではなく、大人がしたことの結果として「大人がすることに併存」して存在し、「それを受けとるしかない」身である子供たちにしわ寄せが来ただけと考えることができます。

前述のように、21世紀に入ると、UNICEFをはじめ世界から「日本の子供たちは世界に類を見ない発育・発達上の危機を抱えている」とか、殊電子メディア使用状況においては「日本は世界の実験場」とまで言われるようになり、国内でも2005年には日本アカデミー「こどもの心」特別委員会からの危険勧告が出されるなど、具体的に子供の育ちの脆弱性が指摘される様になりました。

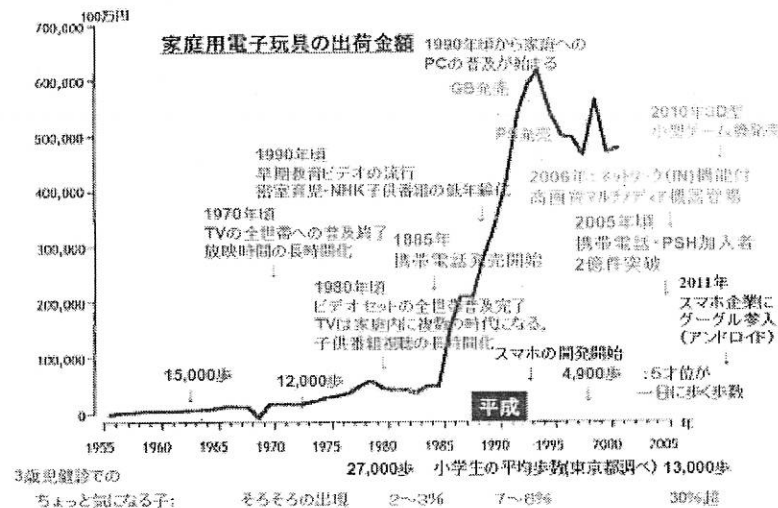
が、しかし、これらの問題は具体的な解決を見ないまま、2011年グーグルがスマホ産業に参画をはじめると、これまでのiモード（日本発、携帯電話のPCアプリ）とは次元を異にする所謂スマートフォンと呼ば

れる高機能モバイルが全世界に向け一斉に登場し、一挙にスマホパンデミックとも言うべき状態を迎えてしまいました。

その結果、世界から「なんか育ちがおかしいよ」と言われていた日本の子供ばかりでなく、世界中で「子供の成育環境がおかしい」と認識される事態に至り、人類史を画するといっても過言ではないほどの劇的変化が、世界中で一斉に起こることになったのです。皆さんはこれを「自分の問題」としてお気づきになっているのでしょうか？

(以下次号)

(平成29年7月 S.URATA MD.)



“子ども・若者とメディアを考える会”

期日：平成30年11月17日(土) 13:30～

場所：玉名市勤労者体育センター

内容：「親子でできるふれあい遊び」

担当：公私立保育所・園

感染症

up to date! ～風疹～
(三日はしか)

母体の保有免疫抗体価が低いと
「胎児性風疹症候群」が発症します。

「風疹」は、発熱と一緒に首周りから米粒大の紅色班がではじめ、同時にリンパ節や脾臓も腫れることがあるのが特徴です。発赤疹が消えるまでの経過が三日ほどであることが多く、その昔は「麻疹＝はしか」に並ぶ春先の代表的な子供の疾患であり、でも発疹が一部麻疹様であるため、「三日はしか」というあだ名が付きましました。

予防接種がそこそこ成功しているため、近年では子供の間では発症が見られず、よって、最近では「突発性発疹」を「三日はしか」と呼んでいる人がいますが、いずれにしてもあだ名です。因みに、突発性発疹は、主として乳児に診られるヒトヘルペスウイルス6・7型の初感染で、水痘の親戚です。

麻疹に比べると軽症に経過しますが、子供の代表的な感染症（現在では殆んどが予防接種で予防）同様、大人がかかるとやっぱり重症です。それは一般的に大人のウイルス排除力が子供のそれに比べると強力だからであり、免疫力がちゃんと育っている証拠です。

(以下次号)

(H30年5月 S.URATA MD)



予防接種は月齢・年齢に合わせて終了できていますか？

母子手帳を確認し、受けられていないワクチンは早めの接種をお勧めします。

